

学校教育ビジョン		【学校教育目標】 「自分も人も大切にできる きんひがの子」 ～夢をもち、心豊かに、自ら学び行動できる児童の育成を目指して～		1. 教育活動に関する重点努力事項 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 ～知・徳・体のバランスのとれた児童の育成～		2. 学校経営に関する重点努力事項 ① 組織的な学校運営 ② 教職員がやりがいを感じながら、生き生きと働ける学校づくり	
----------	--	---	--	---	--	---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	「子どもに委ねる授業」に取り組む。	・教育課程の工夫(カリキュラムマネジメント)に取り組み、「子どもに委ねる授業」の実現をめざす。 ・BE THE PLAYERプランの計画・実行。 ・児童自身が「自分で」「自分から」取り組む意識を育むために、学習集会や振り返りなどの機会を設ける。	教務主任 研究主任	言われたことには、素直に取り組むことができる児童が多い。一人一人が「自分で」「自分から」学習に向けて方法を選んだり、進んで取り組んだりすることに課題がある。	【満足度指標】 児童アンケートを行い、各自の学習の取組を振り返らせる。	「自分から」「あきらめずに」学習に取り組むことができたと答えた児童の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	1学期末と2学期末に児童を対象にアンケートを行う。	A		「自分からあきらめずに、ゴールやめあてに向かって取り組むことができる」のアンケート項目に対し、肯定的評価をした児童が96.7%であった(「そう思う」が58.7%、「どちらかといえばそう思う」が38.0%)。児童の様子から、どうしても学習に意欲が持ちづらい子、集中が続かない子もいる。1時間の流れや単元の流れなど見通しをもてるようにしたこと得意欲的に取り組むことができたり、「こうしたらいいい」がわかる手立てがあると頑張ることができたりする子もいる。どの子も「自分から」「あきらめずに」取り組むことができる手立てを全学級で実施していく。
②生徒指導※いじめの未然防止	児童を主とした「自分もみんなも楽しい学校」づくりを支える。	6年生を中心として縦割り活動を企画し、「自分もみんなも楽しい学校づくり」の一員として全校で取り組む。企画委員を軸として、「自分もみんなも楽しい学校」にするためにどうすればよいか、児童に考えさせる。各月の生活目標をもとに委員会全体で達成するための行事を企画する。	生徒指導部	先生に言われたことはできるが、自分から行動を起こす児童はほとんどいない。自分たちで学校を良くしようとする意識を高め、自分たちで考えて主体的に行動させていく。	【満足度指標】 児童アンケートを行い、「自分もみんなも楽しい学校」づくりに力を入れたかどうか振り返らせる。	「みんなが楽しい学校にするためにしていることがあるか」に「ある」と答えた児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1学期末と2学期末に児童を対象にアンケートを行う。	A		学期末の生活アンケートで、みんなが楽しい学校にするためにしていることがある児童が146人いて全校の約98.6%であった。友達を誘って仲よく遊んだり、自分から挨拶をしたりする児童が全体の70%を超えていた。一方で「授業で話し合うときに自分から友達に声をかけている」を選んだ児童は全体の30%であった。2学期は、学習指導部と連携しながら、企画委員会を中心として全校に向けて授業の参加意欲を高めていく取り組みを行っている。
	いじめや不登校の未然防止のため、生徒指導の4つの視点を生かした授業に取り組む。	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりに取り組む。チェックシートを活用し、具体的な声掛けや、働きかけの方法を示す。必要に応じて児童アンケートを取り、児童の実態に即した取組になるようにする。	生徒指導主事	本校の実態として、自己肯定感が低い児童が多く、共感的な人間関係が稀薄である。生徒指導の4つの視点のうちの「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」に着目し、視点に沿った取り組みをしている。	【努力指標】 毎月チェックシートに○をつけ、各自で自分の取組を振り返り、意識を高める。学期に一度、児童の実態に即しているか見直し、必要に応じてシートを改善しながら取り組む。	職員全体の「生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりチェックシート」の達成率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	教職員のチェックシートを集計する。	A		7月末に行ったチェックシートの集計の結果、達成率は98%だった。4月の集計では達成率が94%であり、どの教員も1学期は一貫して生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりに意識していたことが分かった。一方で、教員によっては1学期を通して達成できない項目もあったので、2学期は生徒指導担当がそれぞれの教員に合わせた声掛けを行うとともに、9月に生徒指導の4つの視点を生かした授業の公開を行い、教員全体で授業力を高めていく。
③キャリア教育・進路指導	目標をもって生きようとし、自分の成長を振り返ることができる児童を育てる。	学期ごとに、成長メーターで振り返る機会を設ける。	学習指導部	教職員が児童の1年間の成長度合いを見る機会があまりなかった。児童においては、自分の課題を見つけた。目標に向かって粘り強くやり遂げたりすることに弱さを感じる。	【満足度指標】 成長メーターでの振り返りを通して、自分の成長に気づかせる。	成長メーターで、自分が決めた項目が伸びたと答える児童の割合が、 A 90%である B 80%以上である。 C 70%以上である D 70%未満である	学期ごとに成長メーターで振り返りをさせる。	C		キャリアパスポートの成長メーターで、自分が決めた項目が伸びたと答える児童の割合が71%であった。初めから決めた項目の「できた」位置が高く、現状と変わらない子も7%いた。学校生活や行事で確実に成長はしているの、見逃さず教師が価値づけをしていく。また、エンカウンターなど自己肯定感、学級力を向上させる取組をより強化していく。
④保健管理	自分の生活を振り返り、健康的な生活習慣を確立するために自分で考え行動することができる児童を育てる	・毎週の生活チェックで、健康行動の振り返りと、できていない場合は改善していく。 ・児童のスクリーンタイムを短くし、その分「早寝」や「運動の時間」をのばす。 ・メディア使用と心身の健康の関係について、関心や危機感をもてるよう児童・保護者へ働きかける。	保健主事	昨年度のアンケート結果によると、1日のスクリーンタイムが1日2時間以上の児童が60%おり、また1日の運動時間1時間以下の児童43%いる。また睡眠時間が1日8時間未満の児童が47%いた。スクリーンタイムの長さが児童の健康生活習慣や体力の向上に害を及ぼしている現状がある。	【成果指標】 家でのメディア使用についての約束ごとを決めて、それを守ることができた児童の割合80%以上を目指す。	「家でのルールを守ってメディア機器を使用することができた」と答えた児童の割合が、 A 80%以上である B 75%以上である。 C 70%以上である D 70%未満である	6月と12月のメディア・コントロール週間後にアンケート調査を行う。	D		1学期の取り組みとして学級懇談会での保護者への啓発、毎週の自己チェック(生活しらべ)、メディア・コントロール週間、保健指導をおこなったが6月に実施したアンケート結果は「家でのメディア・ルールがある」家庭は71%、「ルールを守ることができている」と答えた児童は66%であり、学校の登校前に動画視聴やゲームをしたり、メディアの使用により就寝時刻が遅くなる児童の実態がある。ルールがない家庭にルールを作ってもらうための働きかけとして7月に「メディア★マスターカード」を実施した。多くのご家庭が夏休みを楽しむためのメディア・ルールの見直しと温かい声掛けをして下さった。(回収率は91%)2学期はメディア機器の使用と他の生活習慣とをつなげて保健指導を行っていくことで児童に繰り返し健康への害を認識させ危機感をもたせる。子ども達が決めたルールを守り達成感もてるよう、自己の実態にあったルールを作りそれを守るように家庭と連携し引き続き働きかけを行う。
	児童の発達段階に応じた、柔軟性の向上を目指す。	・全学年共通の準備運動として、ストレッチや体幹トレーニングに取り組ませる。 ・縦割り活動や委員会活動のイベントを通して、楽しみながら柔軟運動に取り組めるような活動を委員会で企画する。	体育・健康部	昨年度の新体力テストで、柔軟性の項目において4年女子(現5年)、5年女子(現6年)、4年男子(現5年)が県平均を下回っている。	【成果指標】 5月の記録に比べ、長座体前屈の記録が向上する。	長座体前屈の記録が向上した児童の割合が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	・5月に1回目の計測を実施する。7月に2回目、10月～11月の間に3回目の計測を実施する。	C		長座体前屈において5月と7月の記録を比較したときに、記録が向上した児童の割合は64.5%(C評価)であった。体育委員会での企画や体育の授業の準備体操において柔軟性を向上させる取り組みを行うことができた。柔軟性の向上は継続的な取り組みが必要不可欠だと考えられるので、2学期以降も体育の授業の準備体操での取り組みや体育委員会と連携しての企画を行っていきたい。また定期的に記録の測定を行い、柔軟性を高める意識付けをしていく。
⑤安全管理	自分の命は、自分で守ることができるよう、いざという時には自ら考え判断して行動する児童を育てる。	各学期に1回以上、避難訓練を実施し適切な経験を積み重ね、自らの命を守るためにはどのようにしたらよいか考えられる児童を育てる。	教頭 安全教育担当	ほぼ100%の児童が、避難訓練の際、指示に従うことはできている。しかし、緊張感に欠ける児童が高学年に数名みられる。自分で考え、正しい行動をとることを目指していきたい。	【満足度指標】 自分の命を守るためにどうしたらよいのかを自分で考え行動できる。	自分で考え適切な行動ができた児童が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	避難訓練後、児童に振り返りのアンケートを行う。	A		「あわてずおちついて・しゃべらずぶざけないで避難できた」児童は、A(とてもよくできた)、B(だいたいできた)合わせて、97.5%であった。Aは80.3%で、Aの割合が高いことから、適切な行動ができていたことがわかる。1学期は、火災避難訓練、洪水想定垂直避難訓練、県一斉防災訓練に合わせたシェイクアウト訓練、引き渡し訓練(児童と教職員)の避難訓練、防犯訓練(1、2年)を計画的に行うことができた。2学期には、「自分で自分の命を守る」「自分の頭で考えて行動する」ことをねらいとした休み時間の避難訓練、不審者対応訓練を行う。
⑥特別支援教育	個々の児童の特性を理解し、必要な支援を行いながら、多様なあり方を認め合えるように働きかける。	・支援を要する児童について個別の記録をこまめに残す。 ・児童理解の会で課題や支援の方法について教職員の共通理解を図る。 ・専門家を招いての校内研修会を持ち、児童の特性への理解を深める。	特別支援教育コーディネーター	・学級で困り感の強い児童については、校内支援委員会を持ち、カウンセリングや専門相談、医療機関につなげている。 ・本校のSSRでは、教室に入れない児童の個々の状態に合わせた対応ができるようになった。	【努力指標】 研修会や児童理解の会を持ち、支援の方法において検討して共有し、児童の支援に生かすことができる。	多様な特性や相互理解を深める方法について学び、児童の支援に生かすことができたと感じた職員が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	教職員にアンケートをとり意識調査を行う。	B		1学期末のアンケートは93%だった。夏休み中にカウンセラーによる教職員を対象にした研修会を開いた。カウンセラーには、2学期以降は児童を対象にした心理教育プログラム(5、6年の保健体育や学活等)に入っていた。また、冬休みには子ども育成センターの先生方を講師に研修会を行う。児童理解の会を月末に毎回行うことができた。悩んでいることのアドバイスをもらえてよかった。名前があがった児童をふだんの生活で注意して見たり出会ったときに声をかけを工夫したりすることができた等、児童の様子がよく分かり、支援に生かすことがおおむねできていた。今後は指導や支援でうまくいったことを伝え、確認・共有の場にもしていく。2学期も校内支援委員会を持って困り感がある児童や担任、保護者に寄り添い、専門相談や他の関係機関、カウンセリングにつなげていきたい。
⑦組織運営・業務改善	明るく元気に児童と向き合うことのできる心身ともに健康な教職員の姿を目指す。	業務の見直しを進め、精選と合理化を行う等の工夫をし、自らの働き方について考える。また、連携・協同を進めることで、業務改善に努める。	教頭	職員の3分の2が、見直しを持ち優先順位を考えた。見直ししたり等の工夫をしているが、業務が多岐にわたっているため改善できていないと感じている。中でも校務分掌の議案作りや生徒指導案件での対応に多く時間をとられていた。保護者や地域の理解を得ながら、笑顔で児童に向き合う時間を増やすために具体的な取り組みを行い、業務改善を進める。	【成果指標】 業務の精選(削減)、合理化、分掌内での連携を工夫しながら推進し、時間外勤務時間を月45時間以内にす。(昨年度達成率63%、延べ人数計算)	時間外勤務時間の月合計が45時間以内の教職員が(達成延べ人数/14人×月数) A 90%である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1学期末と2学期末に児童を対象にアンケートを行う。	D		時間外勤務時間を月45時間以内に収められた割合は58.9%で、判定結果はDであった。年度のスタートである4月は時間外勤務時間が多かったが、下旬から夏季休業に入る7月は全員が45時間以内を守ることができた。昨年度の達成率は、63%であったことをみると、改善されているとはいえない。勤務時間は、8時10分から午後4時40分であるが、児童が登校する前の7時30分には勤務を始め、午後7時前まで校務分掌、教材準備、保護者対応に追われているのが現状である。業務の校外移管、削減、簡素化、効率化、また、分担の見直しをさらに行っていく。教職員が明るく笑顔で児童に向かえるよう、保護者や地域にも現状を知っていただき、ご理解とご協力をいただく。
⑧研修	国語科を中心に授業改善を図り、研究主題である「自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ子の育成」を目指す。	国語科「読む」単元を主として、単元デザインシートを活用することで、付けたい力を確実に付けるとともに、児童が「やってみたい!」と思える魅力ある言語活動を設定し、児童が自立した学びとなるよう授業を構想する力を付ける。	研究主任	昨年度より国語科を中心に学校研究を進めてきた。教員は付けたい力を軸に言語活動を設定する意識を持つようになってきた。ただ、児童にとって「やってみたい!」と思える言語活動にはなっていないので、単元デザインシートを活用して授業改善を図っていくことが必要である。	【満足度指標】 児童アンケートを行い、国語科が「楽しい」学習であったかどうかを振り返らせる。	国語科の学習が「楽しい」と感じている児童の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1学期末と2学期末に児童を対象にアンケートを行う。	A		国語科の学習が「楽しい」と感じている児童の割合が80%であった(「そう思う」が44%、「どちらかといえばそう思う」が36%)。4月に作ったアンケートの肯定的回答割合は70.9%であった(「そう思う」が37.6%、「どちらかといえばそう思う」が33.3%)。肯定的回答割合が約10%伸び、特に「そう思う」と回答した児童の割合が高くなっている。1学期は6、3、5年で研究授業を行ったこともあり、単元の見直しや付けたい力と言語活動を教員が意識できたことが要因と言える。昨年度から国語科の授業づくりについて学んできた経験も生かされている。また、本年度は外部講師を招聘し、国語科の授業づくりについて学んだり、教材研究をしたりする機会を設けることができた。2学期以降も読むこと単元における単元デザインシートの作成を徹底し、児童の実態に合った魅力ある言語活動を設定していく。
⑨保護者、地域との連携	学校と地域(家庭)が目標を共有し、連携・協働しながら、児童の学びや成長を支える。	コミュニティスクールの活動を実働化させ、保護者や地域の方に教育活動に参画してもらい、学校の教育活動を充実させる。	教頭	各学年の平均は、4回であった。保護者や地域の方のおかげで良い活動となった。道德のゲストティーチャーを招聘しての授業、実技教科を中心とした支援者が少なかったことが残念であった。	【努力指標】 家庭や地域との連携による授業や活動を、年4回以上行う。	連携した授業や活動が各学年 A 年5回以上できた。 B 年4回以上できた。 C 年3回以上できた。 D 年2回以下であった。	実施状況を確認する。	C		米作り、家庭科裁縫実習支援、学年行事等で支援していただいたり、連携を行ったりすることができた。全校として関わってくださっている読み聞かせや平和学習でのお話を入ると3回以上になる。2学期以降も積極的に進めていく。それ以外にも租税教室、防犯教室などで地域の外部団体にはお世話になっている。
⑩教育環境整備	児童が安全に、また、教職員が効果的・効率的に教育活動を行うことができる環境を整える。	全教職員による備品・教材整備を計画的に行い、児童が自分で選んで活動できる場を増やす。	教頭	全体的な整備は、計3回行った。PCルームをリフォーム(「学び空間デザイン」)し、自由進捗学習や総合的な学習の場としてフレキシブルに使えるようにした。計画的な整備により、効果的な教育活動を行うことができた。	【努力指標】 全教職員で定期的に備品・教材の整理整頓を行う。工夫した学習の場を作る。	全教職員で備品・教材の場の工夫のための整備を年間 A 3回以上実施した B 2回実施した C 1回実施した D 実施しなかった	実施状況を確認する。	C		児童の夏季休業中を利用して、3つのグループ(外用具庫、スタジオ、きんひがルーム1)に分かれて整備を行った。今回は、特に机・椅子の1か所管理、防災備品の整理、外用具庫の中の廃棄品の処理・テントの整頓をした。暑い時期ではあったが、協力して行えた。必要な物をすぐに取り出せるようになった。冬、春と後2回、計画的に整備していく。
学校運営委員会での評価、助言	〈中間〉・登校の際、けがをした友達を気遣い助ける児童がいた。良い関係が築けていると思った ・項目の中で、学校評価の中の児童の自己評価の達成率が高いが、児童・保護者アンケートの数値の低いところが気になる。授業参観以外で、参観できる場があればよい。落ち着いた授業に取り組んでいるか、楽しい学校生活を送っているか、普段の様子を見たい。 ・メディアのルールが守れていない。家庭での親子の会話を大切にしてほしい。対人関係が希薄になっているのでは。遊び方も昔のような集団遊びが少ないのが残念。 ・子どもの話は、手をとめて必ず聞いてあげてほしい。学校での出来事を聞いてあげることが大切ではないか。					〈期末〉				